「……長……学園長！」
ぱら～♥
「……あら…」
「二人共一緒？あいかわらず仲がいいのねどうしたのかしら？」
「いえ……今日の会議に関してなんですが…」
「任せるわ…私は『大事な交渉』があるから♥」
「え？でも司令官がいないと…」
「それよりニ人の時間を大事にしないさい…せっかく巡り合った恋人同士なんですから♥」
「……やっぱりおかしいね…」
「ええ…『あの人』に呼び出されてからいつもボーっとしてて……それに…」
「うん、学園でも今、ちょっとした噂になってるよ…『あの人』と一緒にいるところをよく見かけるって……」
「ママが幸せになるならいいのだけど…前はあんなに毛嫌いしていた人なのに…」
「何かおかしいよね……ボクも調べてみる…だって、あの規律に厳しい千咲さんが……」

「あんな、はしたない格好で学園に来ているなんて……」
「……授業はもういいのかの？千咲ちゃん♥」
「はぁい❤全部まかせてありますから…授業も戦隊の業務も……だから今日も朝まで千咲を可愛がってくださぁい❤」
「鼻の下が伸びとるぞ、ドスケベめ」
「あぁん❤ガマンできなくて……学園でオネダリしちゃいました❤」
へっ♥へっ♥
えへへ♥スケベでゴメンなさぁい♥
「ぬふふ♥たまらんのぉしかも、この格好をしてくれるとは…高校時代はチア部だったんじゃろ？」
「そう…ですけど…こんな変態みたいな格好……『恋人』だからしてるんですよ❤」

「おお！そうじゃったワシらは三日間のセックスで身も心も結ばれたんじゃったな♥」
「あんっ♥そうです……だから千咲のドスケベゆるゆるボディを堪能してください♥んふ♥んふぅ♥」
「全く…ここまで性欲の塊だったとは…最近、学園で噂になっとるぞ『学園長はジジイの女になった』とか『毎日、理事長とエロいことしてる』とかの♥」
「本当のことじゃないですかぁ♥おほっ♥それぇ♥乳首ぃ♥ミルクでちゃうぅ♥」
「娘さんにバレてもいいのかの？♥」
「あぁん♥乳首ごしのきすぅ…んべ♥んちゅぅ♥……いいですぅ♥学園中に知られてもぉ『助蔵さんと千咲はラブラブ』だって♥」
「んちゅ♥なんてドスケベで可愛い女じゃ…ワシの友人共にも自慢したいのぉ♥……そうじゃ…いい考えがあるぞ」

「んぼっ❤んぶちゅぅ❤んぢゅぅ❤」
「チンポしゃぶりに夢中になっとるぞうっ!!❤ホレ、説明せんか」
「んふぅ❤桜間千咲ぃ37歳…おっぱい125センチのQカップぅ…一人娘がいまぁす…んじゅ❤」
「いいぞ❤他のパトロン共に見せつけてやろうか…狙っていた厳格な女司令官のプライベートAVを❤」
「はぁい❤ジュウソルジャーの司令官やってまぁすけど今は助蔵さんと恋人同士❤猿みたいにセックスしまくるラブラブカップルですぅ❤…んぶっ❤んぶぅぅぅぅん!!❤❤」
「しかもバカなコス着てド変態セックスを楽しむ…な…うぐぅ❤」
「ぷはぁ❤そうですぅ…げぷぅっ❤飲んだザーメンの量も亡くなった夫より助蔵さんの方がず〜っと多いド変態カップルですぅ❤いぇ〜い❤助蔵さんスキ❤スキぃ❤」
んぼっ
ぶちゅ
ぢゅぅ
ぶぐぐぐぐ〜〜〜
うめぇ
やばっ
ぢゅるるる〜
ゴキュ
ゴキュ
ぶちゅ
ぢゅぅ
ぶぐぐぐぐ〜〜〜
うめぇ
やばっ
ぢゅるるる〜
ゴキュ
ゴキュ
あ〜〜〜
ぶぐぐぐぐ〜〜〜
ごひぇ〜
さまれぇす

「おちんぽっ♥ふぁいとっ!!おー!!♥
ふれー♥ふれー♥お・ち・ん・ぽっ♥
…あはぁ♥まだおっきくなってるぅ♥」
「いい歳した子持ちの女が…あの厳格な
司令官の千咲がここまでエロバカ女に
なったんじゃ…そりゃあチンポはいくらでも勃つわい♥」
「あんっ♥嬉しいです…助蔵さぁん♥
使い古しでヨダレだらだらのドスケベマンコで
よければたくさん使ってくださぁい♥」
ズンッ
ズンッ
えへ♥オチンポおっきくなぁれおっきくなぁれ♥
ズンッ
ズンッ
「言われんでも使ってやるぞ!♥うっ!♥
マンコどころか子宮口もワシのチンポで
ガバガバにしてやる♥」
「お〜っ♥んぉ!♥ん〜ごぃぃ!♥
これっ…やっべ!♥ぽるちお…おくっ!♥
いくっ♥お〜っ!♥お〜っ!つがれる度
……ひくっ♥…」
「んひひっ!♥セックスすると獣のような声を
出しおる♥今日もガバガバ子宮は
逆流するほどザーメン漬け決定じゃ!♥」
「お〜ひっ♥んひひっ♥うれひぃでぇす♥
……お〜っ!♥」

――3時間後
「んぉぉ!!❤生ザーメンっ❤くるっ!くるぅぅぅ!!❤…んへぇ❤あひひ❤」
「もっとシメんか!これでは放課後までにワシのザーメンを全部絞りきれんぞぉ!」
「あひっ❤そんなぁ…❤ダメダメ…もっと出してぇ❤助蔵さんのスキな…司令官プレイしますから❤」
「ふむ…そうじゃな…ブタ真似しながらやってみぃ❤ほれ、ワシが手伝ってやる」
キッ
ズビッ
ビンビン
おっ❤すごぉ…❤
おおおおっ
やべぇ
イグゥ
ゴポポポ
ぴゅっ❤
ドプッ
ドプドプ
「い…いえっ!…飲みませんブヒッ!❤孕まされたら結婚って言われていて…
…正直迷いはありましたが…愛しの助蔵さまのデカマラザーメンをいただけるなら…覚悟をきめますっ…ぶひぃ❤」
「よく言った!それではいくぞっ、ひひっ❤」
「おねがいしますぅぅ!ぶひぃぃん❤」
「んごっ!?❤んごんごっ❤はひっ!助蔵様っ!!これよひ、ゆるゆるドスケベマンコを全開でシメます…んぶひっ❤金玉より孕ませザーメンの装填お願いしますブヒっ!!❤❤」
「いい覚悟じゃ!❤ただし、この後、避妊薬を飲まずが条件じゃ!」
「えっ……そ、それは…」
「その程度の覚悟じゃったか…ならば膣内射精はなしじゃ!」

――6時間後
「ふー♥もうこんな時間か…撮影してたの忘れてしまうのぉ♥」
「んへ♥うへへ…♥すけぞぉさんのチンポ♥やっべ♥おっ♥動いてないのにっ…きたくるっ…おひっ♥」
「んふふ♥簡単にイキおって……ワシの家にこのままの格好で移動する時も3回はイッたかのぉ♥」
「んひ♥見つかった時は頭バカになるくらいコーフンしましたぁ♥」
「男子だったからフェラ抜きで口封じ出来たがの…いや、きっと明日には広まってるじゃろうな♥」
「いいですぅ♥知られてもぉ…」
「だったら娘さんに報告せんとな…この動画での…」
あひぃ
すっげ
どぴゅどぴゅ♥
「はぁい♥こさきぃ、ママこのままオチンポ説得されたら助蔵さんのプロポーズ断れないからぁ…新しいパパできちゃうけど許してねぇ♥ぴーすぴーすぅ♥」
「それじゃあチンポ説得……続けるかのぉ♥」
すげぞうさん
だいすきぃ
へっへ
へっへ
「あぁん♥ママ今日も…うぅん明日も明後日も帰れないと思うけど心咲なら朝陽くんがいるから大丈夫よねぇ♥私も……愛する助蔵さんにオチンポ説得されてきまぁす♥」

ぱらーん

へっへっ♥
えへへ♥スケベでゴメンなさぁい♥

ぴっ
あんっ
はやくぅ…チンポ…チンポ入れてぇ…オ・チ・ン・ポぉ…
れりぃ
ぐりぃ
ぐりぃ♥
ぐりぃ♥
べろぉ
すぼっ
ぐぷっ
ぐぷっ
んぐぅ…ぐぷぐぷ…すぼぉっ…ぐぷぐぷ…
じゅぽっ

ぶちゅ
じゅぼ
ぶちゅ
ぐぽ
ゴキュ
ゴキュ
ぐぐぐぐぐ〜♥
やばっ♥
うぁ♥
ぐぅぅぅ〜♥
あ〜♥
ごひそ〜♥
さまれぇ♥

ズボッ
ズボッ
ズボッ

ぶびゅるるるっ♥
キッ
ぶびゅるるるっ♥
すごぉ…♥
おぉおおっ♥
やべぇ♥
イグぅ♥
ごぽぽぽぽ
ぴゅっ♥
ドプドプ
ドプぷぷぷ♥

あひぃ
すっげぇ
どぴゅどぴゅ♥
へっ♥
すげぇ♥
だいすき♥
へっ♥